

佐賀県の危機管理

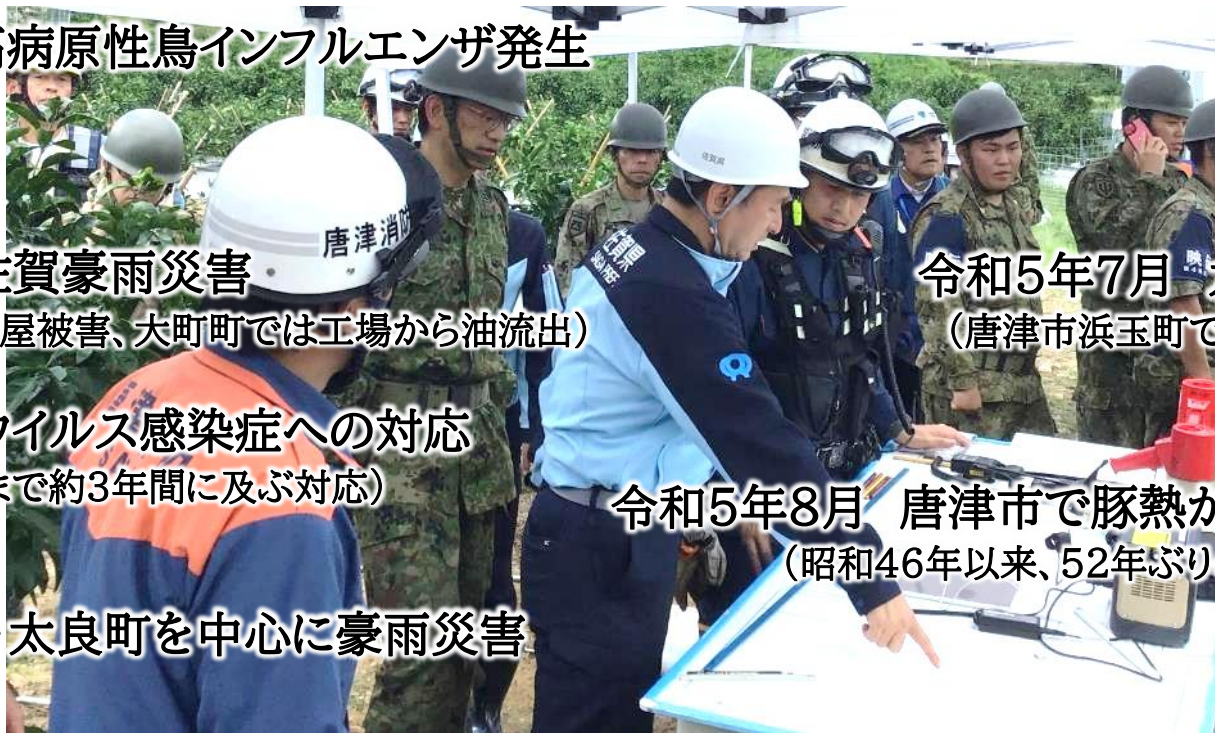
～救える命を救いたい～

この10年、様々な危機事象に対応してきました

平成27年1月 有田町で高病原性鳥インフルエンザ発生



平成29年2月 江北町で高病原性鳥インフルエンザ発生



令和元年8月 令和元年佐賀豪雨災害

(猛烈な集中豪雨により県内各地で家屋被害、大町町では工場から油流出)

令和2年1月～ 新型コロナウイルス感染症への対応

(令和5年5月の5類移行まで約3年間に及ぶ対応)

令和2年7月 鹿島市・太良町を中心に豪雨災害

令和3年8月豪雨災害 2年前をはるかに上回る猛烈な雨が降り続く

(武雄・大町で大規模内水氾濫、山間部で土石流、死者なし)



令和4年12月 武雄市で高病原性鳥インフルエンザ発生



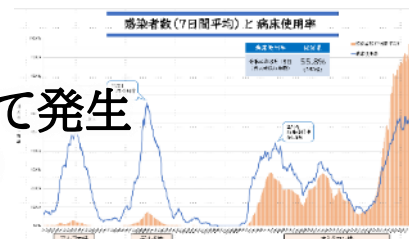
令和5年7月 九州北部豪雨災害

(唐津市浜玉町で土石流発生、3名の方が犠牲に)



令和5年8月 唐津市で豚熱が2例続けて発生

(昭和46年以来、52年ぶりの県内発生)



令和5年11月 鹿島市で高病原性鳥インフルエンザ発生



唯一無二、佐賀県オリジナルの危機管理システム

危機は想定どおりに発生しない
計画どおりに進まない

事態の推移に的確に対応する
オペレーション
が大切

コロナ禍では
県内感染状況などを日々分析



県の対策本部には実動機関も参集
関係者が常時“最新情報”を共有



初動重視

命を守るため、いかに早く動き出せるか

情報を広く収集し、事態を見極める



現場重視

早い段階で現場確認



事態の変化に対処できる職員を
現地指揮者として派遣(副知事など)



救える命を救いたい、初動で人を助ける

自衛隊



空自第43警戒隊
(背振分屯地)



消防

佐賀広域



伊万里・有田



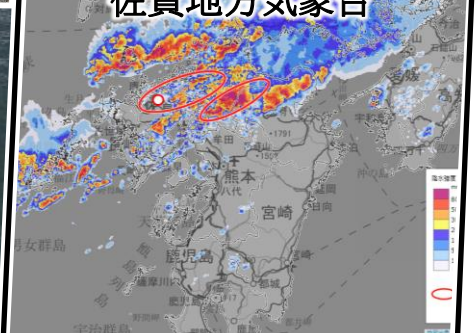
警察



海上保安庁



気象台



実動機関との連携

～普段から 顔の見える関係づくり～

トップ連絡会議



合同訓練



実動機関参加の災害対策本部



様々な分野のCSOが きめ細やかな強みを最大限に発揮

H28
進出

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン



医療を軸とした災害緊急支援
空飛ぶ捜索医療団
“ARROWS”運営

“志”あるCSOが活躍

様々な分野のCSOを積極的に誘致、支援

災害

子ども
障害者

福祉

誘致
CSO

→16団体進出

国際
活動

交流・連携
ノウハウ共有
課題解決

県内
CSO

佐賀県

H30
進出

認定NPO法人
日本レスキュー協会

国内外に災害救助犬を派遣



R2
進出

一般社団法人
日本カーシェアリング協会

災害時に
寄付車両を貸し出し



R5
進出

認定NPO法人
グッドネーバーズ・ジャパン

食事支援、心のケア

公益社団法人—Civic Force

H28
進出



災害支援のプロフェッショナル

一般社団法人
ピースボート災害支援センター

R5
進出



避難所での炊き出し、運営支援

認定NPO法人ジャパンハート

R2
進出

医療支援



認定NPO法人
難民を助ける会（AAR Japan）

物資支援

H28
進出

平成30年設立

佐賀県災害支援プラットフォーム
SPF（現在67団体）

被災地支援を迅速に展開するための調整機能
（行政、地域、企業、CSOなどの関係者を“つなぐ”）

佐賀県の災害対策本部会議にも参加

佐賀県防災ヘリ「かちどき」の実践的運用

令和3年3月 運用開始



山林火災対応



水難救助



昨年度までの 緊急運航

救助	55 件
救急	32 件
火災防ぎよ	17 件
災害状況調査	8 件
他県応援	37 件
その他	5 件



防災ヘリ「かちどき」は初動の大きな力！

支援県 佐賀 これまでも、これからも

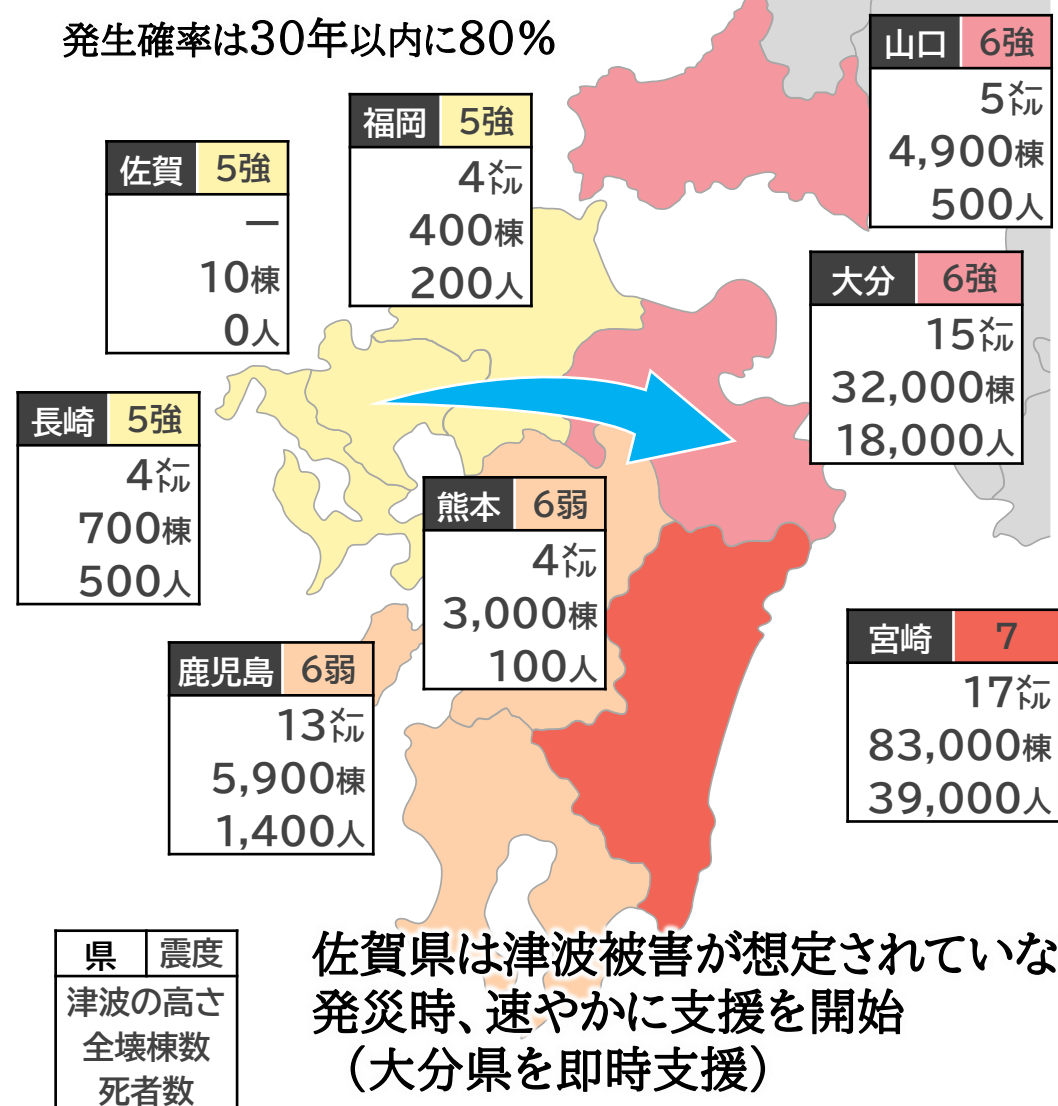
災害支援体制・実績

ハード・ソフトの高いポテンシャルを背景に
これまでも様々な災害で支援を実施



南海トラフ巨大地震の被害想定（内閣府）

発生確率は30年以内に80%



救える命を救いたい

防災・危機管理 最先端県 佐賀



163件目

災害時の新たな協定締結しました

7月1日



佐賀県

<災害時の衣料品等の供給>

お問い合わせ先

佐賀県 危機管理・報道局 危機管理防災課

TEL : 0952-25-7362 FAX : 0952-25-7262

MAIL: kikikanribousai@pref.saga.lg.jp